

	和名(別名)	科名	備考		和名(別名)	科名	備考
25	イヌエンジュ	マメ科	広葉樹	28	ツタウルシ	ウルシ科	つる性木本
							
	落葉高木。北海道～九州の山地の林縁、川岸、湿地の周辺に生える。高さ約15mほどになる。樹皮は緑褐色で平滑、丸い皮目がある。枝は折るとソラマメに似た臭いがする。葉は奇数羽状複葉。小葉は4～7対あり、長さ3～6cmの卵形で、裏面には短毛が生える。枝先に総状花序を数個出し、長さ7～10mmの蝶形花を多数つける。旗弁は後方に強くそり返り、萼に接する。雄しべ10個はすべて離生する。果実は豆果。長さ3～9cmの広楕形、10～11月に熟すが、裂開しない。種子は長さ約7mmの長楕円形で、2～4個入っている。花期は7～8月。冬芽は卵形。				ツタウルシは北海道から九州の日本各地、樺太・南千島・中国などにも分布する落葉のツル植物。ブナ林や暖温帯上部に生育し、気根を出して他の樹木の幹などをよじ登る。地面を這っていることもあり、うっかり座るとお尻がかぶれてしまったりするので要注意。紅葉は他のウルシ属と同様に美しく、秋のブナ林を彩っている。葉は3枚の小葉からなり、頂小葉は5～15cm。雌雄異株で、6～7月に葉腋に小さな花を多数つける。花は黄緑色で花弁は長さ2.5～3mm。果実は扁球形で夏に熟し、縦筋がある。		
26	エゾヤマハギ	マメ科	広葉樹	29	ニシギギ	ニシギギ科	広葉樹
							
	落葉広葉樹。高さ2mほどになる。道内では地上部が枯れることがあるが、根元から新たな幹が伸びてくる。小葉は広楕円形で先は円く、裏に少し毛がある。上部の葉のわきに蝶形の花をつける。蜜のもとになる植物。山野、明るい林のふち。時期は8月下旬から9月				日本、中国に自生する。紅葉が見事で、モミジ・スズランノキと共に世界三大紅葉樹に数えられる。若い枝では表皮を突き破ってコルク質の2～4枚の翼(ヨク)が伸長するので識別しやすい。葉は対生で細かい鋸歯があり、マユミやツリバナよりも小さい。枝葉は密に茂る。初夏に、緑色で小さな四弁の花が多数つく。あまり目立たない。果実は楕円形で、熟すと果皮が割れて、中から赤い仮種皮に覆われた小さい種子が露出する。これを果実食の鳥が摂食し、仮種皮を消化吸収したあと、種子を糞として排泄し、種子散布が行われる。		
27	キハダ(シコロ)	ミカン科	広葉樹	30	ヤマモミジ	カエデ科	広葉樹
							
	キハダは、幹の直径が1メートルをこすものもあり、落葉性の高木です。樹皮の最外層には、厚い淡黄色のコルク質が発達していて寒い地方ほど厚くなっています。コルクの内側には皮部があり、これも厚く鮮黄色をしています。葉は対生する奇数羽状複葉で、小葉は6～7枚、長さ10センチ程の長楕円形をしています。キハダの木は、雌雄異株で初夏に黄緑色の小花を多数つけた円錐花序を枝先につけますが、あまり目立ちません。果実は球形で始めは、緑色で熟すると黒色に変化します。精油を多く含み、特異臭があります。				落葉高木。北海道、青森～島根県の日本海側の山地の谷間など、やや湿り気のある斜面に生える。日本海側の多雪地に多く見られる。高さ5～10m、直径50cmほどになる。樹皮は暗灰褐色。はじめはなめらかだが、成木になると浅く縦に割れる。葉は対生。葉身は直径5～10cmで、掌状に5～9裂する。基部はハート形。裂片の先は尾状にとがり、ふちには不ぞろいの欠刻状の重鋸歯がある。花期は5～6月。冬芽は紅色で無毛。		